



お 建 第129号
平成19年5月1日

国土交通省道路局長 殿

おいらせ町長 三村 正太郎



中期的な計画の作成にあたってのご意見の提出について(回答)

平成19年4月2日付け、国道企第114号で依頼のあった件について別紙のとおり回答いたします。

・重点化を進める上で特に優先度の高い政策

① 渋滞対策、交通安全対策について

当町の東西を国道 45 号、南北を百石道路・第 2 みちのく有料道路、県道 338 号といった主要幹線は県南地方と県都青森市、下北を結ぶ広域的な道路として、また、地域経済の活動に寄与する道路として利用されているところであります。しかし、車社会の増大するなかにおいて国道・県道において歩道のない箇所や狭隘の歩道があり通勤・通学路として大変危険である。そのため、誰もが安心・安全に利用できる交通安全対策施設の整備が必要です。

また、当町には平成 7 年 4 月にオープンした「イオン下田ショッピングセンター」あり、県内はもちろんのこと岩手県北などから年間 852 万人の集客がある。そのため、一部国道、県道といった主要道路の交差点などで交通渋滞が発生し交通事故も懸念される。よって、交差点改良等の要望が強くあることから渋滞対策緩和の整備が必要であります。

② 日常の暮らしを支える生活幹線道路の整備について

当町の移動手段の殆どは自動車交通への依存である。また、平成 18 年 3 月に合併した新しい町でもあるため、旧町間の公共施設を結ぶ道路や町道の舗装改良が強く望まれている。このことから、地域に住む人たちが安心・安全に利用できるための生活道路の整備が必要である。(自動車依存率青森県 97.6%、全国 74.1%、町道舗装整備率 48%)

③ 拠点都市間を結ぶ道路整備について

当町は、県南地方(八戸市に隣接)にあり人口 20 万人都市(八戸市～青森市間)を結ぶ高規格道路の整備が遅れている。(青森県平均都市間距離 34.8 km、全国 24 km の 1.5 倍)このため、地域間交流、物流の効率化など地域経済活動にも影響がある。当町における農産物としては、長いもを中心とする野菜類や鶏卵、そして平成 21 年度の完成を目指して整備を進めている百石漁港、これら農水産物の鮮度が重要であることから短時間で移動できる道路として、高規格道路のネットワーク化が必要である。

④ 道路管理の充実について

舗装老朽化などが原因と思われる家屋への振動被害の苦情がある。(道路全般)特に、当町の東西を走る国道 45 号沿いの住民からの苦情が多いことから、日常的な道路管理が必要である。地域に住む人たちが安心して暮らせる道路管理が常に必要である。

・効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

① 既存道路の有効利用

当町は、八戸市、三沢市及び十和田市の中心に位置しているため国道、県道とも交通量が多く渋滞箇所もある。これらを解消するための方策としては、バイパス整備もあるが当町の南北を第2みちのく有料道路、百石道路が整備されている。これら既存の道路を有効に活用（道路料金の引き下げ）することにより交通量の分散が図られ交通渋滞の緩和が図られる。

② 事業のスピードアップと建設

公共交通の利便性の低い本県においては、自動車交通への依存が高いことから県内の主要都市を短時間で結ぶ道路(上北道路など)の整備が必要である。

・その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関する意見

① 地方の道路整備はまだ十分といえる状況下でない、よって、道路整備財源の充実を図っていただきたい。

(当町は、県内で一番の人口増加の町である。そのため、教育関連施設整備への投資や公共施設整備などへの投資が必要であります。三位一体改革による交付税の削減などにより厳しい財政状況下におかれている。そのため、新設道路、維持補修費に要する一般財源の確保が難しい。)

② 地域や道路地形などの問題により、国道・県道の雨水を町や改良区関連施設へ放流しているため、大雨時に被害が発生している。そのため、道路管理者に応分の整備負担を求めるが道路管理敷地外であることを理由に負担できないことになっているのが現状である。今後応分の負担ができる仕組み又は雨水災害に強い道路整備が必要である。